

令和3年度課題解決型学習(PBL)を通じた  
新しい郷土教育推進事業に係る研究発表会

# 課題解決型学習(PBL)を通じた 新しい郷土教育の意義と展望



三重大学教育学部  
山田康彦



# はじめに（本事業の目的とPBL） 参考

1. PBLの特徴と進め方
  - （1）PBLの特徴
  - （2）プロジェクト型学習(Project-based Learning)の学習過程
2. 課題解決型郷土教育の特徴
3. 各中学校の取り組み
  - （1）津市立美杉中学校
  - （2）松阪市立飯高中学校
4. 2つの学校の取り組みの成果

# はじめに（本事業の目的とPBL）



- ◆ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善について研修し、生徒の言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力の育成を図る。
- ◆ 学習を通して生徒が郷土への愛着や誇りを感じるとともに、学ぶことの楽しさを実感し、学習意欲をもつことができる郷土教育のあり方について学ぶ。

# 本事業の目的にPBLは適している



- ◆ PBL＝事実在即して問題発見、探究、  
解決の学習を行う
- 事実在即して＝郷土への着目
- 問題発見・探究・解決の過程  
＝主体的・対話的・深い学び

# 参考 PBLの誕生・展開と日本における現段階



- PBL教育は、大学などの高等教育の教育方法として開発。
- 知識・技能伝達型の受動的学習に対して、学習者による能動的な実際的な学習を主張する新教育の流れに位置
- 欧米で1960年代の後半から70年代の初めにかけて、一方で医学教育を中心にProblem-based Learningが始まり、他方で工学教育を中心にProject-based Learningが開始された。
- 1980年代以降、これらの2つの形態の教育はそれぞれ別々に広がっていった  
1990年代にはアメリカのデラウェア大学などで医学・工学に限らずに他の専門分野でも取り組まれるようになり  
2000年代になると両形態の共通性に着目して、PBLと一括して展開される動向も生まれてきた。

# 日本では

- 1990年代から医学教育及び工学教育を中心に導入
- 2000年代に取り組む大学が増加。内容の幅の広がり
- 2012年中央教育審議会が大学教育のアクティブ・ラーニングへの転換を答申



「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて」  
「生涯にわたって学び続ける力、主体的に考える力を持った人材は、学生からみて受動的な教育の場では育成することができない。従来のような知識の伝達・注入を中心とした授業から、教員と学生が意思疎通を図りつつ、一緒になって切磋琢磨し、相互に刺激を与えながら知的に成長する場を創り、学生が主体的に問題を発見し解を見だしていく能動的学修(アクティブ・ラーニング)への転換が必要である。」

「発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるが、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法である。」と学習形態や方法を具体的に例示した。

# 小・中・高等学校にも拡大



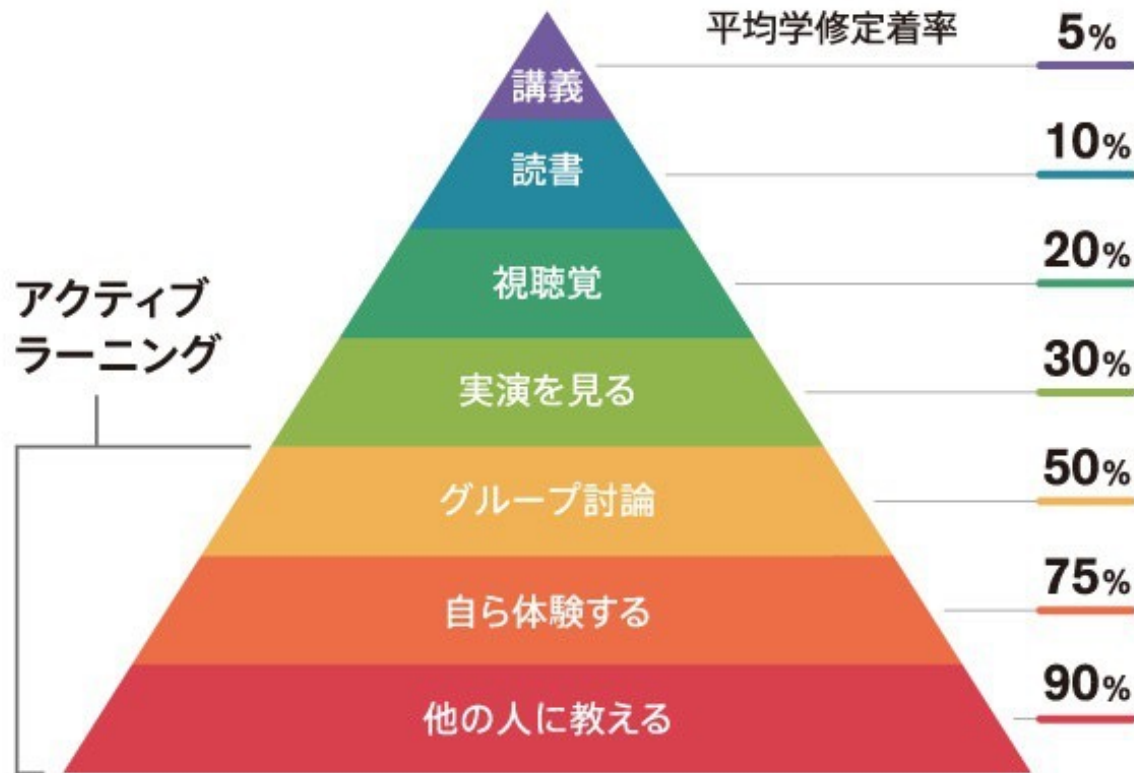
- 2017年学習指導要領改訂によってアクティブ・ラーニング（正式には「主体的・対話的で深い学び」）が推進
- PBL教育は小・中・高等学校にも広がり始めている。特に高等学校では、2019年度入学生から「総合的な探求の時間」が設置され、能動的な探求的学習が進められている

自ら問題を発見し、課題探究し、問題解決する能力は、

探究的・問題解決的な学習の中でしか身につかない。



# ラーニングピラミッド



出典: The Learning Pyramid. アメリカ National Training Laboratories



# 1. PBLの特徴と進め方



## (1) PBLの特徴

### a. 主な形態として2種類ある

①問題発見解決型学習ないしは問題基盤型学習  
(Problem-based Learning)

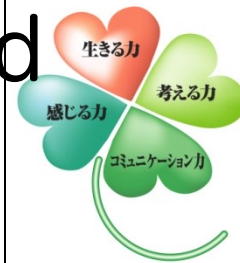
②プロジェクト型学習 (Project-based Learning)

↑ 欧米では共通性に注目して、PBLとして実施

b. 受動的な従来型講義を改善して、学習者自らが能動的に学習する仕組みをもつ教育法。

c. 身近に感じられる具体的な事象から問題(課題)を発見し、その問題を解決するために学習者が自ら学習 (self-directed learning) し、問題を解決する。

## (2) プロジェクト型学習(Project-based Learning)の学習過程



### [①準備 (問題・課題との出会い・発見) ]

- ①目的 (課題の提示)
- ②計画 (解決・検討すべき問題、検討・調査方法の明確化、仮説の設定)
- ③実行 (情報・データの収集、調査・制作の実施)
- ④判断 (結果と考察、プレゼンテーション、振り返り)

\* ①を入れるとProblem型との混合になる

## 2. 課題解決型郷土教育の特徴



一般的な探求的な学習＝調べ学習

### 課題解決型郷土教育

調べ学習

+

- 1) 人との出会いを通じた学習
- 2) 行動を通じた学習

# 学習過程の特徴



- ・問題の把握  
「飯高町再発見シート」
- ・地域の問題と直接出会う
- ・課題の設定  
人と出会いながら練り上げる

## 探究

- ・学習課題の設定
- ・学習計画の設定
- ・情報収集  
(調べる)
- アクションを通しての学び  
(調査・実践)
- ・まとめ

## 発展

- ・発表  
問題の解決に向けて
- ・自らの考えや課題の更新(振り返り)

# 3. 各中学校の取り組み

## (1) 津市立美杉中学校



参加生徒：1年生 6名

学習経過

- ① 問題と課題の発見
- ② 質問と仮説の決定
- ③ 林業体験【アクション】
- ④ 林業を営まれている方に質問・回答  
【出会い】
- ⑤ まとめ・発表



## 質問

- ①管理されずに山が荒れていないか？
- ②木が倒れない工夫は？
- ③動物の死骸から病気は広がらないか？
- ④動物が木をかじることによる被害は？
- ⑤花粉が少ない杉はできるか？
- ⑥木材が売れるようになるには？



## (2)松阪市立飯高等学校

参加生徒：1～3年生全員

授業名称：I-HOPEタイム（「総合」31時間）

実施期間：4月末～12月初め 月2回程度

4月末 オリエンテーション、町再発見シート記入開始

5月末 テーマ設定 →各種調べ学習

9月 I-HOPEデー計画・準備

10月初 I-HOPEデー（実地調査）

10-11月まとめ・発表準備

12月初 発表会

実施形態：

「郷土」「福祉人権」「環境」の3つのコース

縦割りの1班5名、全9班。各班がテーマ

# 発表のテーマ：

\* テーマを簡略化



## [環境コース]

- ① 鮎班「櫛田川の環境を守る一鮎を通して」
- ② 空き地対策班「空き地の有効利用」
- ③ 林業班「飯高町の林業で大切にしたいこと」

## [郷土コース]

- ④ マコモ班「飯高のマコモを有名にする」
- ⑤ 職場班「飯高町に若い人が集まるように」
- ⑥ 山の神班「伝統行事を引き継ぐために」

## [福祉・人権コース]

- ⑦ 老人福祉班「高齢者が暮らしやすく」
- ⑧ 飯高町の子育て班「飯高町の子育て」
- ⑨ ジェンダー班「ジェンダー平等」



# 学習経過例： (マコモ班)



- ・文献・ネットで調べる(概要、食品、歴史)
- ・中学生と地域の人々にアンケート【出会い】  
→知っているけれども、売っていない
- ・仮説とテーマを立てる  
「飯高町でマコモを有名にするには」
- ・地域の人々にインタビュー【出会い】  
→メジャーではないが売れる。女性・健康志向
- ・マコモを育て、料理して食べる【アクション】
- ・2種類のポスターを制作して道の駅に貼る  
ポスター(栄養・効能、歴史・神事)【アクション】
- ・まとめ、発表



## 4. 2つの学校の取組の成果

(1)生徒自身が問題をとらえ、解決する主体的な力を持っていることを示した

- ・生徒自身が既に問題を感じ、とらえている  
→学習・問題解決の主体としての子ども

(2)文献やネットにも出ていないことを発見する

- ・なぜマコモの栽培は労力がかかるか
- ・鮎の食性は  
→生きた知識 学習観の転換

(3)教師もともに学んでいる →共同の学習

- ・大人になって地域で生活する動機は何か



## <参考文献>

L.トープ・S.セージ、伊藤通子他訳(2017)『PBL 学びの可能性をひらく授業づくり』北大路書房

ダッチ・B・J、グロー・S・E、アレン・D・E編、三重大学高等教育創造開発センター訳(2016)『学生が変わるプロブレム・ベースド・ラーニング実践法ー学びを深めるアクティブ・ラーニングがキャンパスを変える』ナカニシヤ出版

溝上慎一(2016)『アクティブラーニングとしてのPBLと探究的な学習』東信堂

三重大学高等教育創造開発センター(2011)『三重大学版 Problem-based Learning の手引き ー多様なPBL授業の展開ー』([https://www.hedp.mie-u.ac.jp/item/Mie-U\\_PBLmanual2011.pdf](https://www.hedp.mie-u.ac.jp/item/Mie-U_PBLmanual2011.pdf))

山田康彦・森脇健夫他(2018)『PBL事例シナリオ教育で教師を育てるー教育的事象の深い理解をめざした対話的教育方法』三恵社